

「家がいいね」 第223号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2022.12.10



誰のために生きるのか

普段は2階も3階も観客で一杯になる大ホールの舞台上に立ちました。オペラ歌手ならここで声を張り上げたいです。人生最後の舞台では誰が席にいますでしょうか。夢想の中で、ドアの閉まる感じが分かってあの人が居たと気付きました。



人通りもまばらな道。倭姫宮から美術館の間にあり紅葉も盛りです。メタセコイアが在ると聞いた徴古館や農業館脇も色づいていました。植物は自ら問うことはありませんが、人はなぜ生きるのか、誰のために生きるのかを、問い続けてしまいます。

誰かのためにと自分を殺して仕えることは最大のストレスと考えます。奉公とか献身との言葉は自らを偽る自覚すらありません。看護記録で見た「家族は献身的に介護する」記載は情けなかった。私が何のためにと問うのでなく、人生が私に何を与えようとするかと考えるなら、私と相手は別々ではない。密接に影響し統合し合うものでしょう。



こころよく
我にはたらく
仕事あれ
それを
仕遂(しと)げて
死なむと思ふ
石川啄木
一握の砂より

「人生は会議できるの?」という懐疑論

前回の「終活」に引き続き「人生会議」も今の流行の言葉です。厚生労働省の推奨するACP(アドバンス・ケア・プランニング) 事前意思決定の手続きのソフトな言い換えになるそうです。まず、死を想像もできない時からの綿密な選択や人生会議など、初体験の一般人には難問ですよ。「はい、説明しましたよ。こういう計画書としてまとめましたので、自分で後はヨロシク」ならば「過去に文書で意思決定したでしょアナタ、さあ決めてください」との突き放しの恐れもあります。そんな決定の場所には、冷たい風が吹きそうです。「では一緒に、迷う都度に、相談しましょう」の関係なら嬉しいと思います。希望します、私なら。

年末年始のお知らせ

12月29日(木)〜1月3日(火) 外来休診
その期間も、在宅患者さんには対応いたします。

今年もありがとう よき明日を夢見つつ



未来を手渡すために、今の時を歩みます。
来年このクリニックにさらに新しいメンバー
が加わる予定です。しばらくお待ちください。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御薊町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<http://isezaitaku.com>



→バックナンバー閲覧可